

2025.7.31. 朝日新聞

寺や史跡 ゆっくり散歩30年 「東京散歩会」会長・武田勝彦さん(87)



名刹、観光名所から地域の小さな史跡・公園まで――。

これまでに仲間と訪ねた場所のはのべ数千カ所をくだらない。さいたま市の武田勝彦さん(87)は、各地を散歩する有志のグループ「東京散歩会」の会長を務めて約20年になる。月1回の散策が老後の何よりの楽しみだ。

同会の発足は1995年。現在の事務局長で、当時証券会社に勤めていた大藤義次さん(78)が、仕事とは関係のないところで人間関係を作りたいたい、と東京・有楽町の地下通路にチラシを置いたのがきっかけだった。

武田さんは生命保険会社を定年退職したばかりの2000年ごろに、職場の知人に誘われて入会した。「過去の肩書や職歴にとられない」という会の方針が新鮮だった。「職場の退職者同士で集まって昔の仕事をしても新鮮

味がない。違う世界の人とも会ってみたかった」

現在の会員は県内のほか、東京や千葉・神奈川などに住む60人ほど。入会は口コミがほとんどだ。平均年齢は約80歳だが、月1回の会合では寺や史跡をめぐるながら7〜8時間も歩く。たとえば6月は、目黒駅近くの七つの寺社と公園、記念碑などを見て回った。寺社の歴史や由来を資料にして配るなど本格的だ。

「散策は休み休みゆっくり。それでもみんな健脚です」散策の解散後は、有志で飲み会。年1回は1泊のバス旅行に行く。仲間との交流が老後の「心の健康」にもつながっているという。「個人が主宰する有志グループで30年も続いてきたのは、雰囲気よさが背景にあると思う。私はいつまで続けられるかわからないが、会としての次の目標は40周年です」

(小林未希)